

4. 黒岳バイオトイレのオガクス掻きだし作業に参加 (2013. 8. 27)

黒岳のバイオトイレは2003年9月19日に運用開始されました。オガクスを利用したバイオトイレです。

電源はソーラー発電、風力発電のほか発電機も使え、蓄電池を備えたハイブリット自家発電です。

予測最大利用者数は4室合わせて1日200回です。

2004年の本格運用開始早々から利用者数が予測値を大幅に超える日が続く、オガクスのバイオ処理が追いつかず、年5回ほどのオガクス交換を余儀なくされ、上川総合振興局はじめ関係者の大変なご苦労が続いています。

オガクス(屎尿)の掻き出し・運搬作業に当会からは8月27日に2名参加しました。

防護服やカッパは着ているのですが、屎尿まみれの重労働。10月2日にヘリで全て下界に搬出されました。

バイオトイレの改良について検討していますが、コストや実施した後の保証の担保など課題が多く、関係者は頭を悩ましています。



掻き出したオガクス(屎尿)を運搬する

6. 幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに協力 (2013. 9. 21~23)

日高山脈ファンクラブ(樋口和生会長)主催の幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに、当会の会員も参加しました。

幌尻山荘では、屋外にバイオトイレが1基、貯留式仮設トイレ2基、山荘内に貯留式1基が設置されています。

バイオトイレの電力は水力発電です。以前の発電機は故障が多発し利用できない日も多かったのですが、日本製に取替えてから順調に稼働しています。

今回は、全日程参加者19名、日帰り参加者22名の総勢41名で幌尻岳の清掃登山、排泄物汲み取り運搬作業を実施しました。人力運搬総量は420kg。全ての便槽が空になりました。

2005年開始したこの事業は年1~3回実施していますが、今後ともボランティアで継続実施する保証はできません。現在一泊1,500円の利用料を値上げして登山者に負担してもらい、ヘリ搬出費用や人件費を捻出することも検討課題として上がっているようです。



排泄物を担ぎ額平川を渡渉する

5. マスメディアで山トイレ問題をPR (2013. 8. 2~9. 2)

8月10日、FMノースウェーブに仲俣、8月24日、HBCラジオに岩村代表が出演しました。

また、8月2日、北海道新聞、そして8月4日は朝日新聞に新しいトイレマップの完成についての記事が掲載されました。さらに9月2日、北海道新聞の社説に「携帯の持参を習慣に」と題して掲載され注目を浴びました。

マスメディアでの広報は大きな効果が期待されます。これからもいろいろな機会を捉えて、PRしていきたいと考えています。

7. 山開きでマナー袋を配布 (十勝岳: 2013. 6. 16・大雪山: 6. 30)

十勝岳の山開きは4コース、大雪山山開きは3コースで実施されました。

それぞれの主催者に山のトイレマナーガイドとマナー袋を170部送付し、参加者に配布していただきました。

主催者側からも感謝され、前日の宿泊所で山のトイレマナーについて説明、情報提供を実施していただきました。

連絡先

060-8589 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学大学院農学研究院内

山のトイレを考える会 事務局 (担当: 愛甲哲也)

電話&FAX: 011-706-2452 電子メール: hokkaido@yamatoilet.jp

<http://www.yamatoilet.jp>

(ニュースレター編集)
仲俣善雄